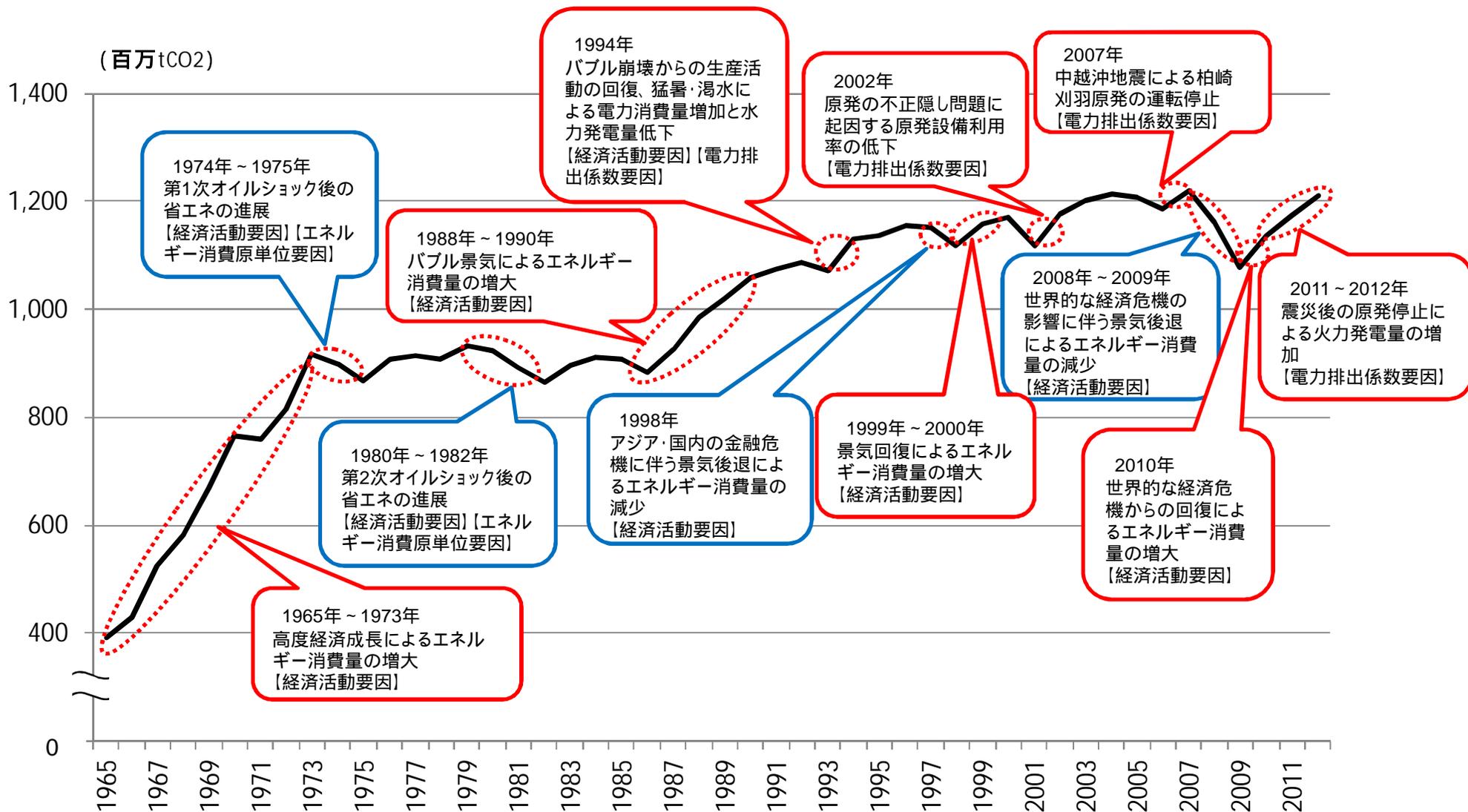


## 2.2 エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量全体

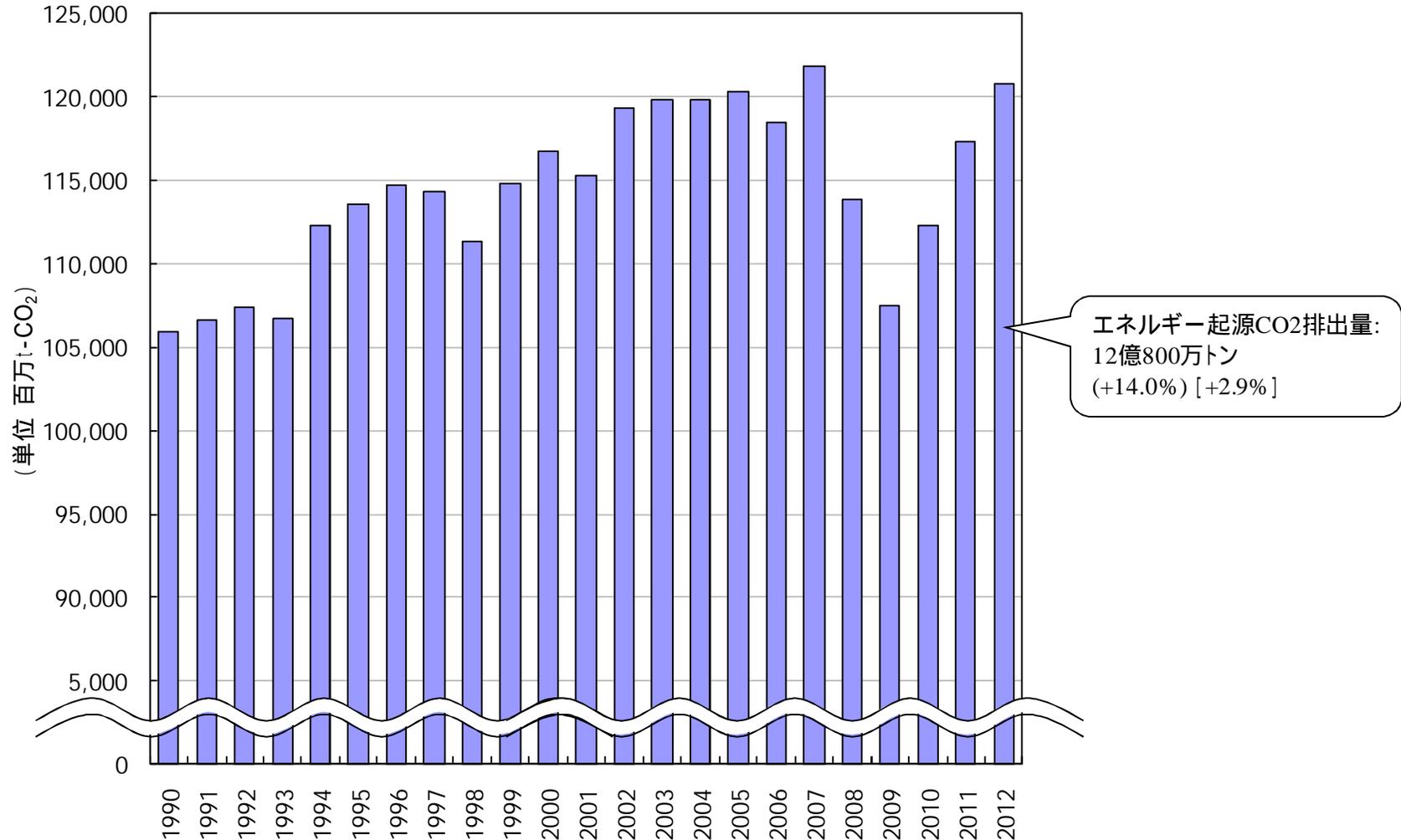
# 我が国のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の長期的な推移

エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は、1965年から2012年までに209.0%増加している。



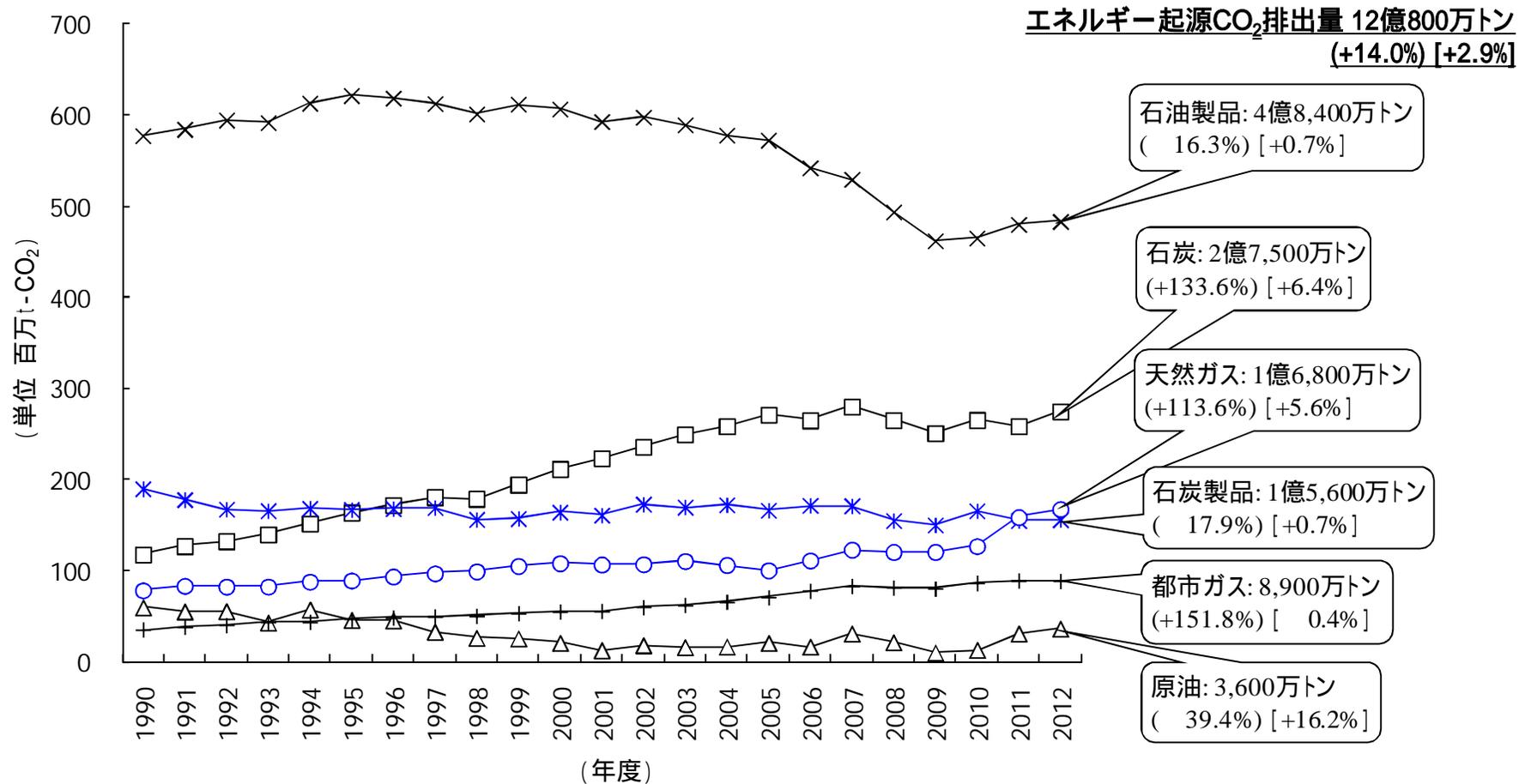
# エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の推移

2012年度のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は12億800万tCO<sub>2</sub>で、1990年度比14.0%増、前年度比2.9%増となっている。



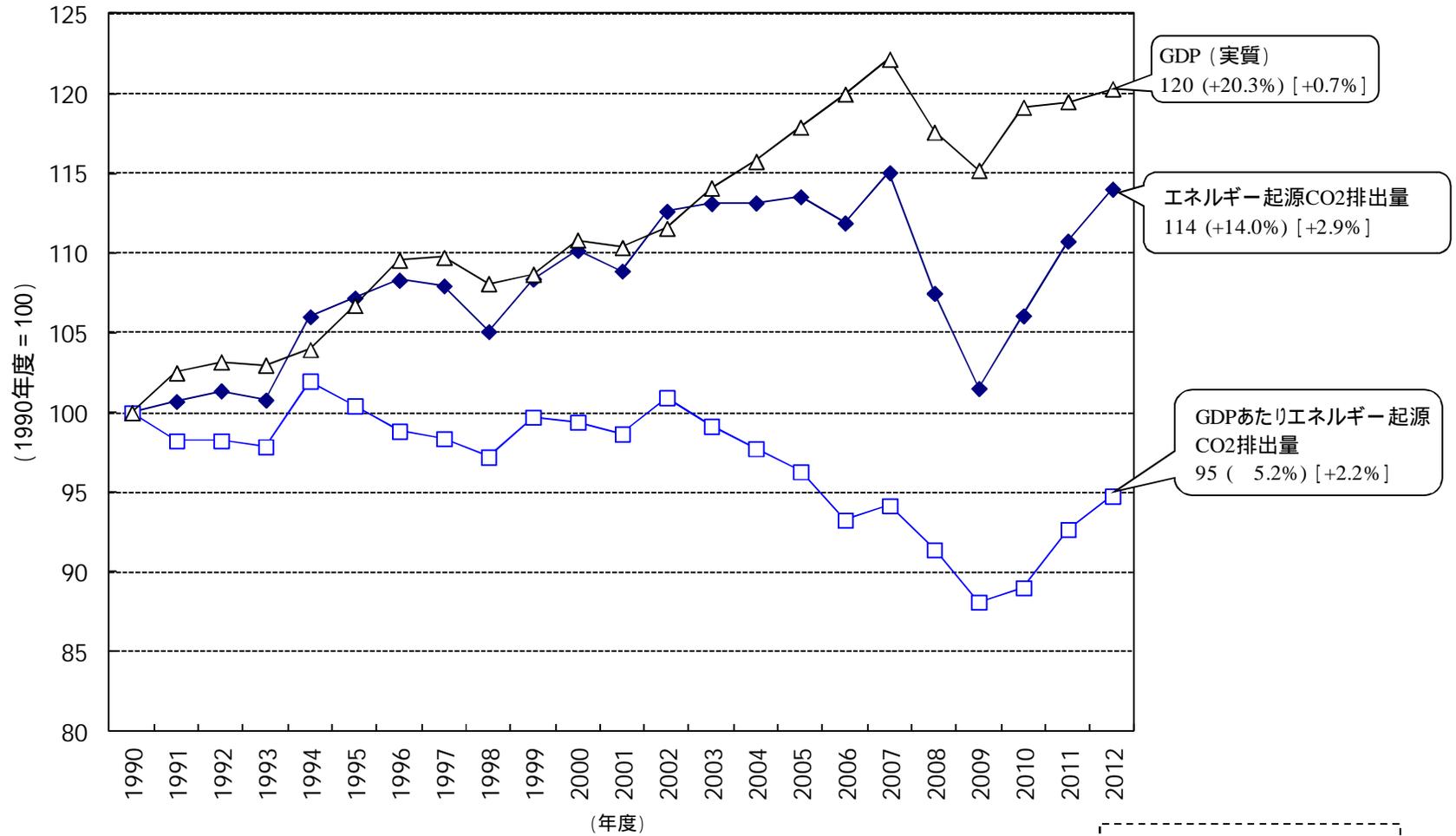
# 燃料種別CO<sub>2</sub>排出量の推移

燃料種別のCO<sub>2</sub>排出量の前年度からの増減をみると、2012年度は原油、石炭、天然ガス、石油製品、石炭製品が前年度から増加しており、都市ガスが前年度から減少している。最も増加率が高いのは原油で、石炭、天然ガスが続いている。1990年度と比較すると、石炭、天然ガス、都市ガスは排出量が大きく増加しているが、一方で石油製品、石炭製品、原油からの排出量は大きく減少している。



# GDP、エネルギー起源CO<sub>2</sub>、エネルギー起源CO<sub>2</sub>/GDPの推移 (1990年度 = 100)

GDP、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量、GDP当たりエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の全てで、2008年度・2009年度は連続して大きく減少していたが2010年度以降は3年連続で増加している。2012年度については、前年度に比べてGDPは0.7%増加し、エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は2.9%の増加となった。その結果、GDP当たりエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量は前年度比2.2%の増加となっている。

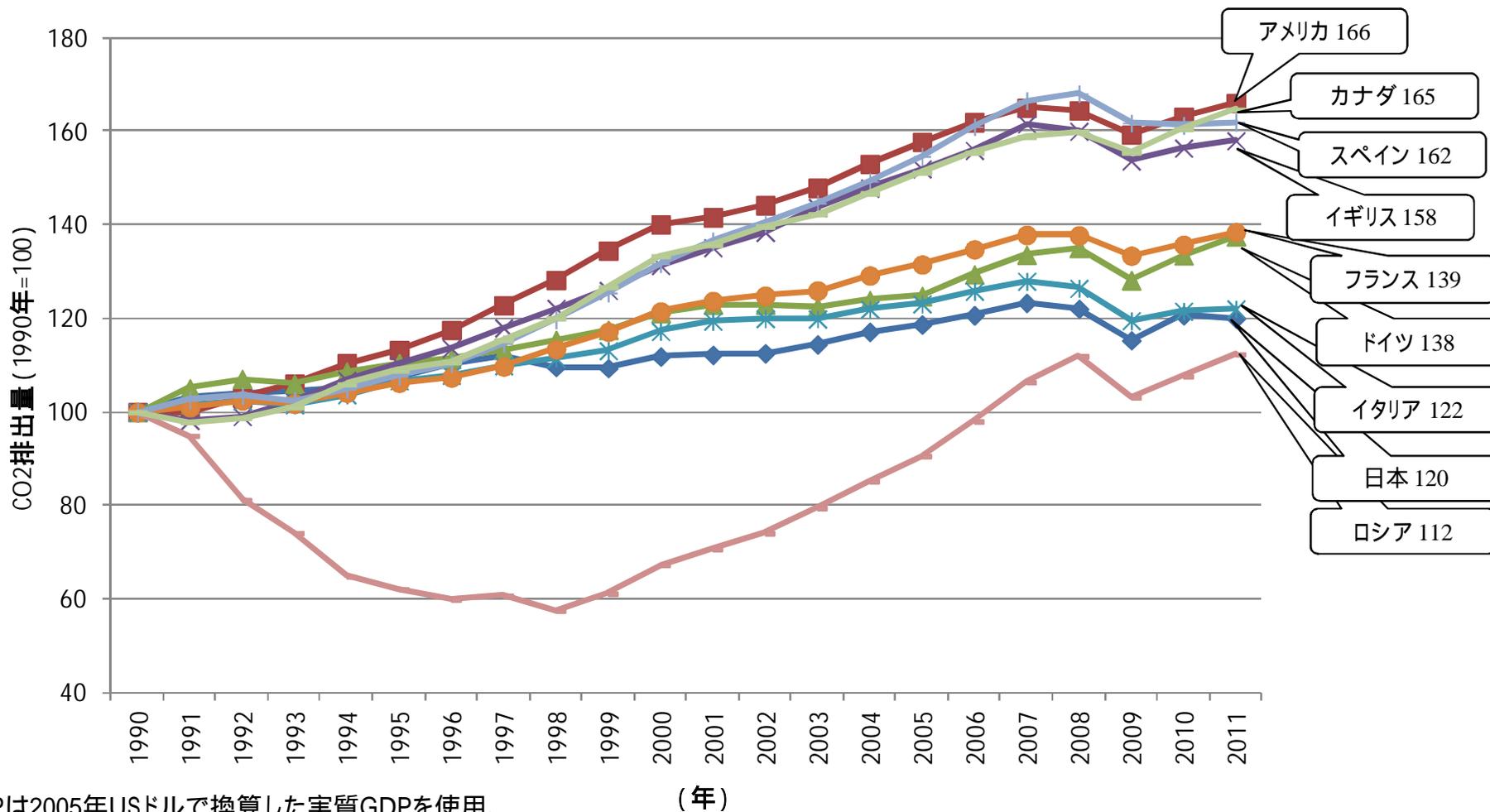


<出典>温室効果ガス排出・吸収目録、EDMC/エネルギー・経済統計要覧(2014年版)  
((財)日本エネルギー経済研究所)、国民経済計算(総務省)をもとに作成

(1990年度比)[前年度比]

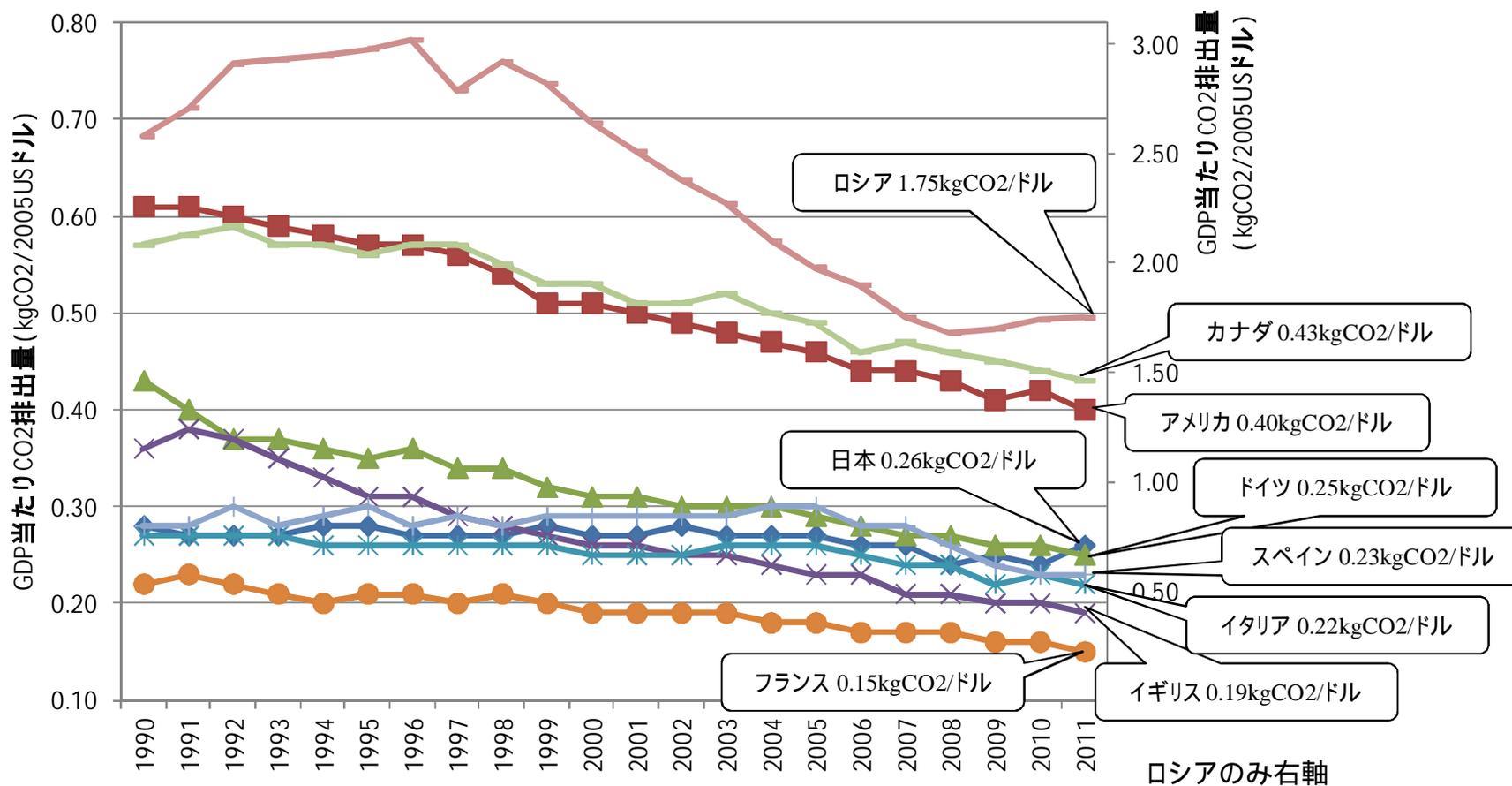
# 各国のGDP の推移 (1990年=100として)

主要先進国の1990年と2011年のGDPを比較すると、全ての国でGDPは増加しているが、最も増加が大きいのはアメリカで、カナダが続く。日本はロシアに次いで小さい増加率である。



# 各国のGDP 当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移

主要先進国で2011年のGDP当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)が最も大きいのはロシアで1.75kgCO<sub>2</sub>/2005USドルとなっている。一方、最も小さいのはフランスで0.15kgCO<sub>2</sub>/2005USドルである。日本は0.26kgCO<sub>2</sub>/2005USドルで、9カ国中4番目に大きい。



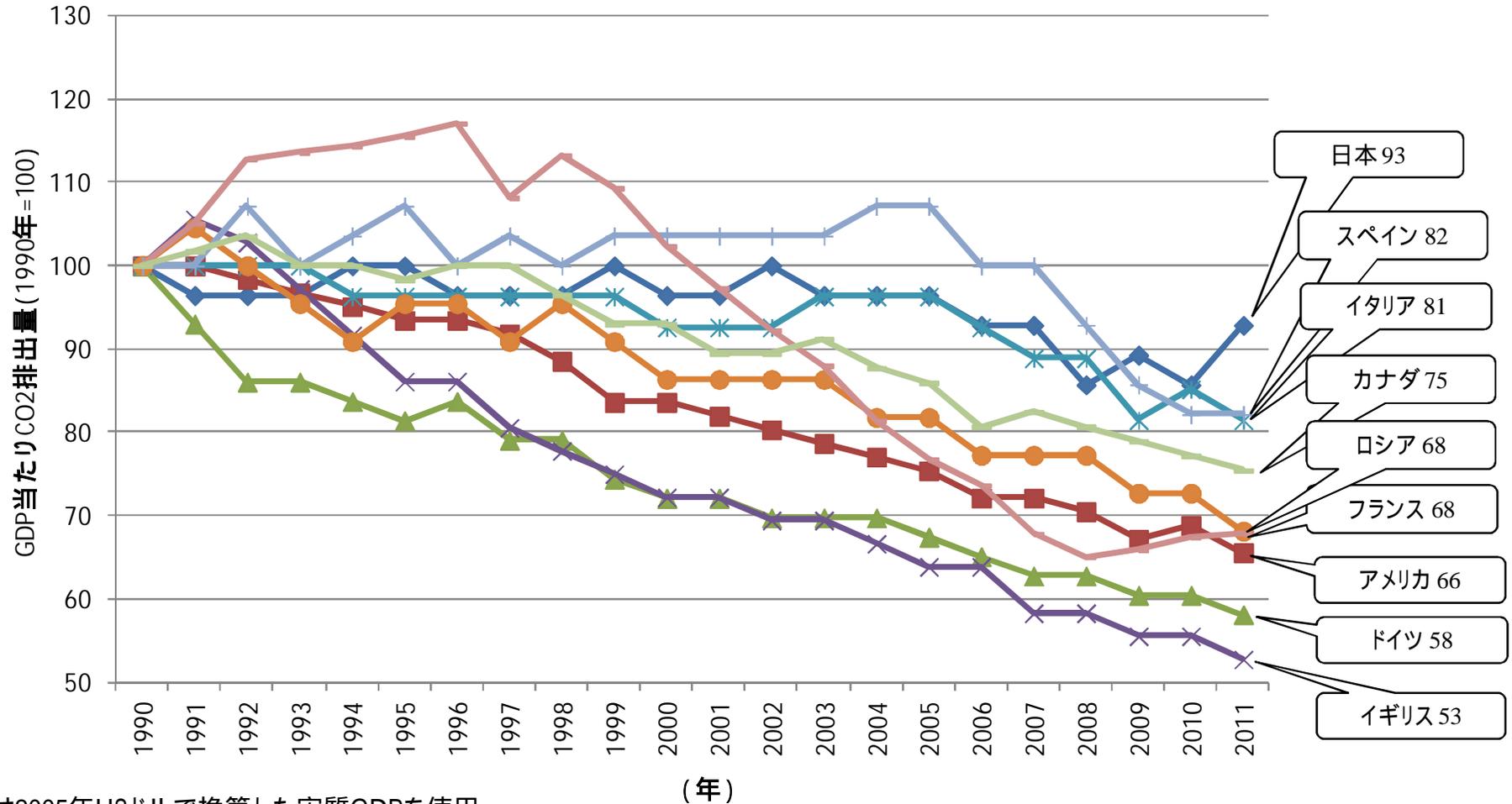
GDPは2005年USドルで換算した実質GDPを使用。

(年)

<出典> CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion (IEA)

# 各国のGDP 当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移(1990年=100として)

主要先進国のGDP当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)について、1990年と2011年を比較すると全ての国で減少しているが、減少が最も大きいのはイギリスで、ドイツが続く。日本は最も減少率が小さい。

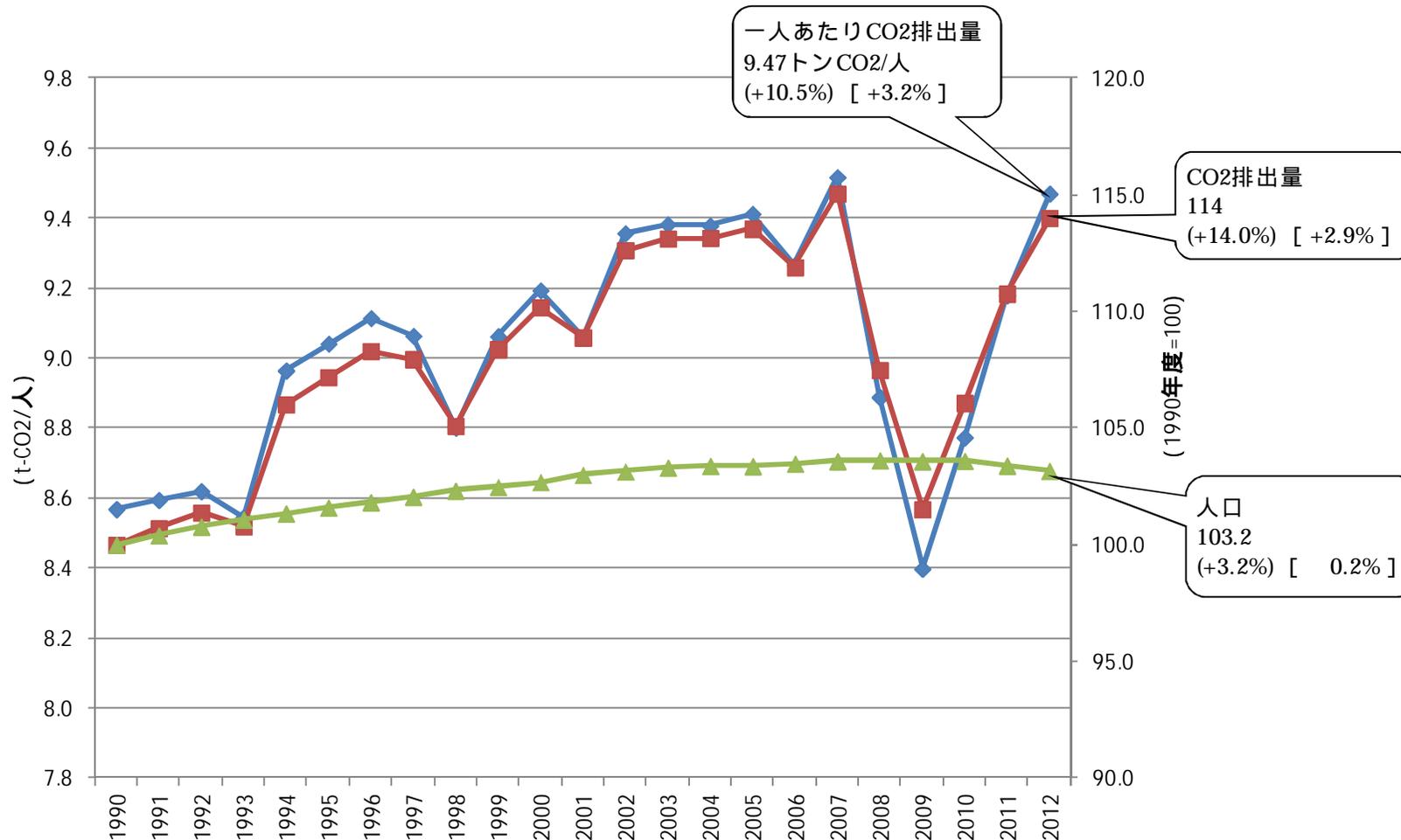


GDPは2005年USドルで換算した実質GDPを使用。

<出典> CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion (IEA)

# 日本の一人あたりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移

日本の一人あたりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)は1990年度以降増加基調にあったが、2008年度・2009年度に大きく減少した。2010年度以降は3年度連続で増加しており、2012年度は前年度に比べ3.2%増の9.47トンCO<sub>2</sub>/人となった。1990年度と比べると10.5%の増加となっている。

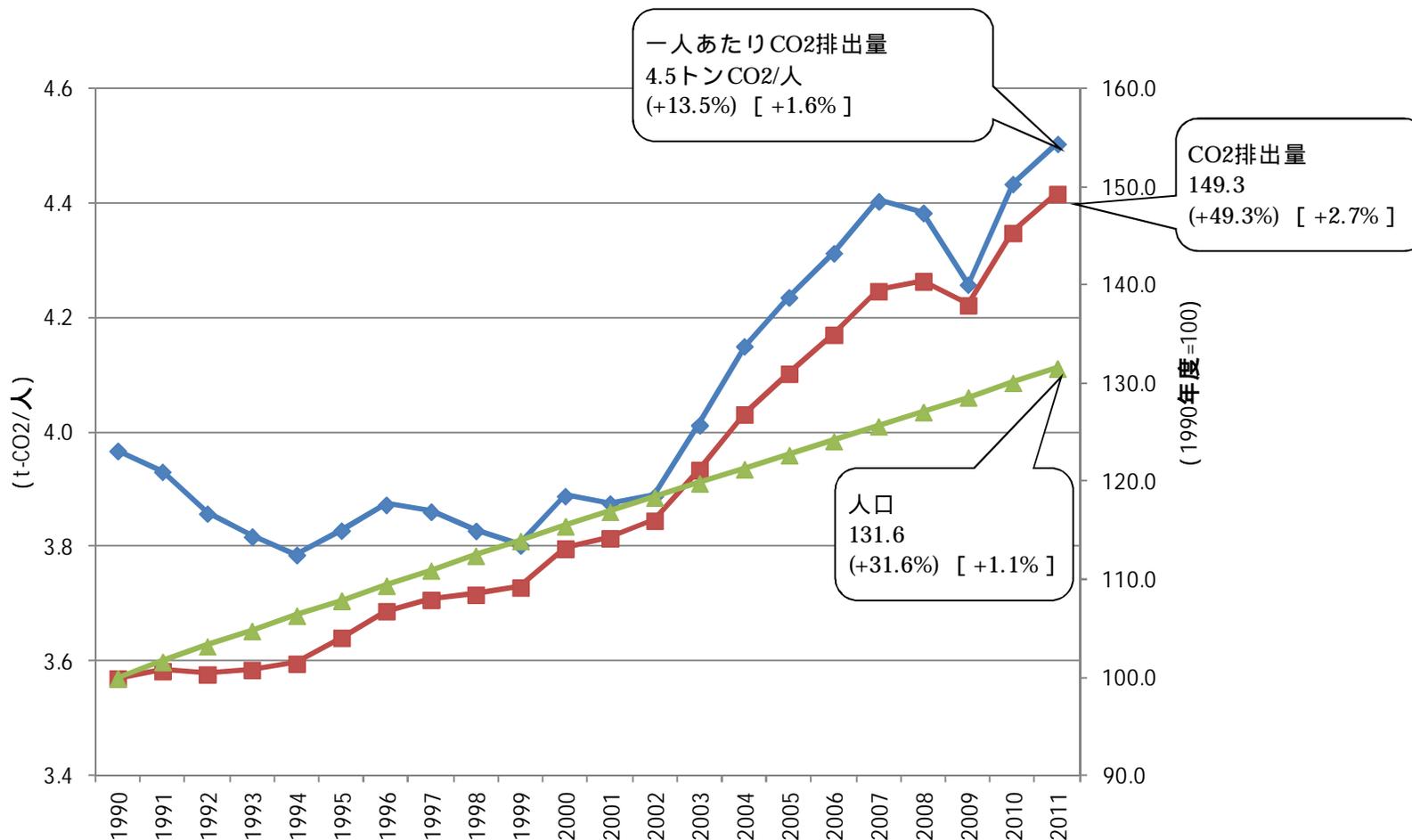


<出典>温室効果ガス排出・吸収目録、各種人口データをもとに作成(1990, 1995, 2000, 2005年度:国勢調査(10/1時点人口)(総務省)、上記以外:総務省ホームページ(10/1時点人口))

(1990年度比)[前年度比]

# 世界の一人あたりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移

世界の一人あたりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)は2000年辺りまでは増加と減少が繰り返され、2002年までは1990年より低いレベルにあったが、2003年以降は急激に増加している。2008年・2009年に一時的に減少したものの、2011年は前年比1.6%増、1990年比13.5%増の4.50トンCO<sub>2</sub>/人となっている。

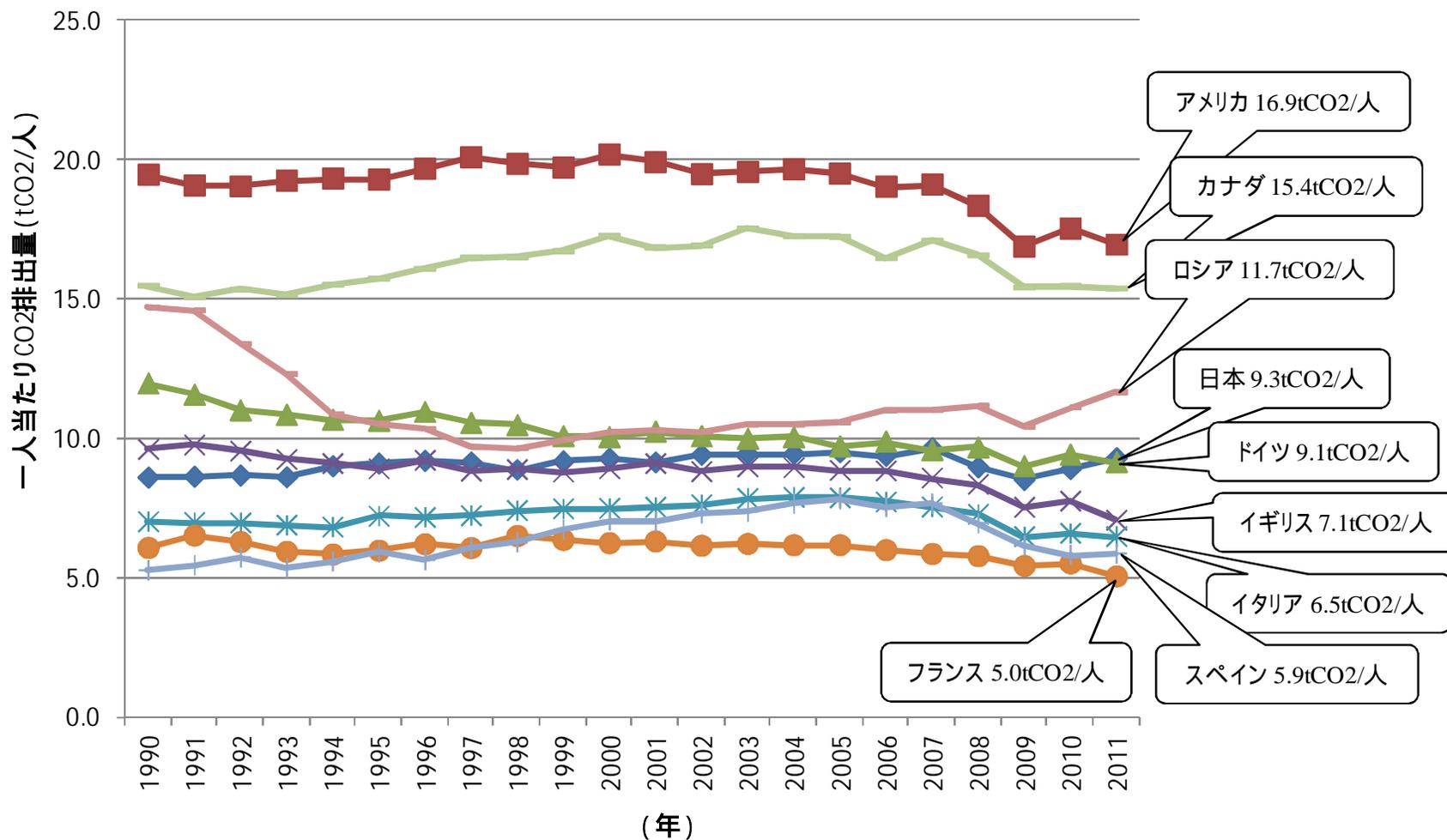


<出典>CO<sub>2</sub> Emissions from Fuel Combustion (IEA)

(1990年比)[前年度比]

# 各国の一人当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移

主要先進国で2011年の一人当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)が最も大きいのはアメリカで16.9tCO<sub>2</sub>/人となっている。一方、最も小さいのはフランスで5.0tCO<sub>2</sub>/人である。日本は9.3tCO<sub>2</sub>/人で、9カ国中4番目に大きい。



# 各国の一人当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)の推移(1990年=100として)

主要先進国の一人当たりCO<sub>2</sub>排出量(エネルギー起源)について、1990年と2011年を比較すると、スペインが最も増加が大きく日本が続く。それ以外の国は減少しており、イギリスが最も減少が大きくドイツが続く。

